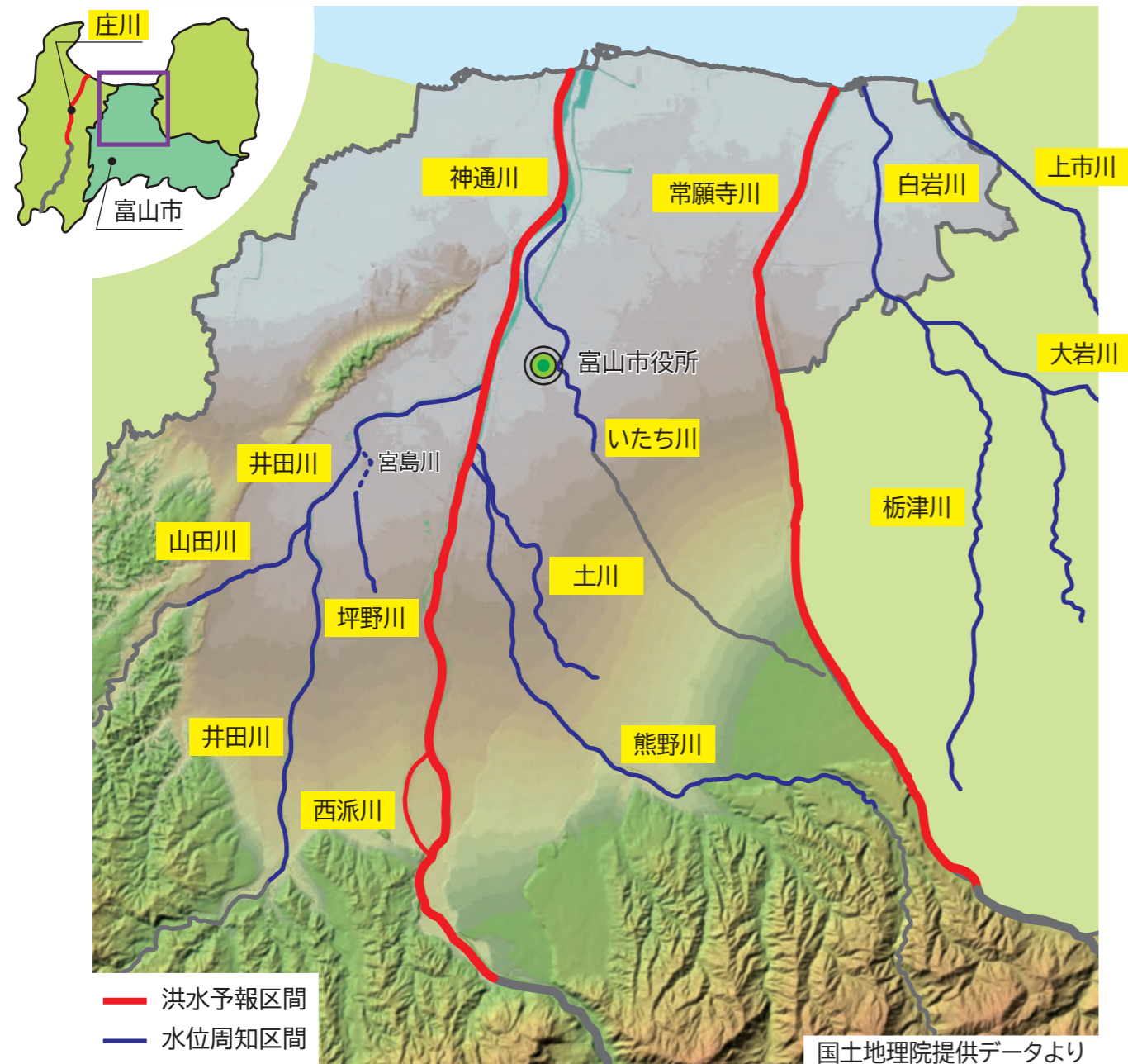
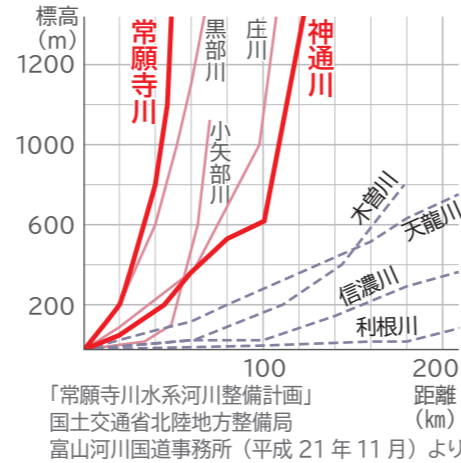


地形を知って避難しよう

市内には、洪水で重大な被害が生じるおそれのある河川が多く流れています。特に、国内屈指の急流河川（右図参照）とされる常願寺川と神通川は、非常に大きな洪水エネルギーを持つおそれがあります。

富山市街の多くは広大な扇状地になっており、常願寺川のはん濫※では広く浅い浸水の傾向があり、市の中心部まで影響が及ぶことが想定されています。流れの早い洪水が迫ってきますので、状況に応じた適切な避難行動をとりましょう。

一方、神通川のはん濫※では河川沿いの狭い範囲で深く浸水する傾向がありますので、速やかに安全な避難場所などへの立退き避難を行いましょう。



※ 常願寺川および神通川のはん濫イメージ
国土交通省所管の河川については、国土交通省が公開するサイト『浸水ナビ』にて、浸水が広がるイメージを確認することができます。

避難するときの心得

1. 自分の命は自分でまもる
2. 自分の判断で早めの避難
3. みんなで避難（一人で避難しない）



- ！ 動きやすい服装で**
 - ・荷物はリュックサックに入れて両手を自由に。
 - ・ひもでしっかり締められる運動靴をはく。
 - ・長靴は中に水が入るため危険なので使用しない。
 - ・傘は使わず雨合羽を着て両手を空ける。
- ！ 移動の際は危険を避ける**
 - ・先導する人は、長い棒や傘で足元を確認。
 - ・マンホールや側溝、水路、くぼみ、障害物などに注意。
 - ・地下道や道の端側を歩かないようにしましょう。
 - ・切れた電線などには近づかない。
 - ・水位の高い橋はできるだけ避けましょう。
- ！ 地下施設は危険**
 - ・地下にいると外の状況がわからない。
 - ・地下空間は冠水や停電の危険性が高い。
 - ・照明やエレベーターなどは機能しない。
 - ・水が一気に流れ込むため逆らって避難するのは非常に困難。

要配慮者への心遣い

- ！ 高齢者や傷病人、子ども**
 - 安全な場所まで手をひいたり背負ったりして避難する。
- ！ 目や耳の不自由な方**
 - 声をかけて情報伝達。
 - 先導する際は杖を持つ手の反対側に寄り添ってゆっくりと歩く。
- ！ 肢体の不自由な方(車椅子)**
 - 複数人数で対応する。ひとりで対応するときは背負って避難。
 - 階段の上りは前向きに、下りは後ろ向きにして移動する。
- ！ 耳の不自由な方**
 - 話しかけるときは口をハッキリと開けて、相手にわかりやすく見えるように。
 - 筆談などを活用する。

ヘルプマークを身につけた方
外見でわからなくても、災害時には支援が必要なことを示すマークです。避難の際は配慮をお願いします。

ヘルプマークについて
富山市 ヘルプマーク



地形を知って避難しよう

避難するときの心得